

核となる体験活動の実践【第6学年の実践】

1 テーマ

「大王谷の福祉について考えよう」

2 目標

- 地域・人に対し、自分たちにできそうなことを考えて、自分ができることを進んで行く。
- 自ら選び計画した活動に、友達と協力して取り組み、自分なりの考えをもつことができる。
- 地域調査を通して地域のよさや課題を知り、課題解決を通して地域とのつながりを深め、地域での福祉活動に関心を持つことができる。
- 福祉教育を通し、これからの自分の生き方を考えることができる。

3 第6学年で目指す基礎的・汎用的能力を身に付けた児童の姿

人間関係形成・社会的能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
相手の立場に立って考え、適切に行動することができる。	自分の長所や欠点に気づき、自分らしさを発揮することができる。	自分の行動を振り返り、問題点を改善しながら最後までやり通そうとすることができる。	憧れとする職業を持ち、今やるべきことを考えることができる。

4 活動の実践

	学習内容及び活動
課題に出会う	1 福祉を知ろう「ふくしてなんだろう」 ◇外部講師(4名) 成合進也先生(日向市社会福祉協議会)他 〈学習内容〉 ・目的・目標・学びのプログラムについて ・ふくしの学び(基本) 福祉＝ふだんのくらしをしあわせにすること ・チカラの使い方 ・学びの確認、個別課題の説明
	2 地域を知ろう!「作戦会議」 ◇外部講師(4名) 成合進也先生(日向市社会福祉協議会)他 〈学習内容〉 ・インタビュー結果の発表(共有) ・地域調査の説明(あいさつ、見えないものを見るメガネ) ・作戦会議(グループワーク) ・調査コース、内容、調べたいこと、必要な機関との調整
	3 地域を知ろう!「地域調査」 ◇外部講師(38名) 成合進也先生(日向市社会福祉協議会)他 〈学習内容〉 ・地域調査のポイントの確認 ・地域調査 6年1組(6月21日)…7グループ 6年2組(6月13日)…7グループ 6年3組(6月14日)…10グループ ・学びの発表・共有
課題解決	 



児童に「福祉」を理解させるため日向市社会福祉協議会の成合進也さんを外部講師として「福祉」についての共通理解を図った。
 「福祉」とは、「ふだんのくらしをしあわせにすること」であり、そのためには、命を大切に、互いに「ちがいを認め、感謝の気持ちを持ち、自分も人も共に幸せに生きることが大切であるということ」を学んだ。



スタッフ1)
 スタッフ2)

地域調査企画シート

地区 3 組 グループ名 大王谷 5 組

【1】地域調査メンバーとその役割 5分

役割	1回目	2回目	3回目
リーダー			
記録係			
写真係			
インタビュー			
発表			
発表			
発表			
発表			

【2】調査する地域の様子、地図に、知っていること、わかっていること！

【3】調査する地域の様子(グループワーク)5分

【4】調査地域の思い出と共有 5分

【5】調査結果の発表と共有(インタビュー)5分

【6】調査結果の発表と共有(インタビュー)5分

ふだんのくらしをしあわせにするために…

6年1組(10月24日)… 7グループ
6年2組(10月25日)… 7グループ
6年3組(10月26日)… 10グループ
学びのまとめ



社会福祉協議会の方々の評価を見ると、概ね高評価をいただいているが、活動の途中で変更があったり、新たな課題が見つかったりした地区もあり戸惑ったグループもみられた。それらのグループも含め、児童に確認したことは、この活動はこれで終わりではなく、今後も継続して行われるということであった。まだやり残したことがあれば、引き続き取り組むことで、地域の福祉活動になるということを伝えた。

※ 地域福祉活動が終わった後「私が学んだことは…」として、自分が福祉活動で何を学び、何を感じたかをまとめた。ただしこの報告書は、単なる活動の記録ではなく、家庭の方々へ向けて自分たちがどのような学習をしてきたかを家庭に向けて報告する形式にした。

このような活動をとおして、家庭の方々にどのような学習を行っているのかを知っていただくきっかけとなった。

ま
と
め
る
・
伝
え
る

大正学芸会初等部6年 地域を基盤とした福祉教育プログラム 2016

地域福祉活動 報告書



「私が學んだことは…」

Your happy My happy♪
（参加者のみなさんへのお礼と感謝の気持ちを込めて）

6年3組 氏名

大正学園初等部6年生のみなさんへ

本日の地域福祉活動についての「学び」や「感想」を記入してください。

そして、お家の人に学ぶことを伝えてください。

問1) どんな福祉活動をしましたか？ 活動した内容を詳しく教えてください。

何をやったか 「どうやってやるか」

障害者の方。大人が人とのがわいりながら、困っている事を助けたので、障害者の方も、お礼。それからイベントを開催して、実際に区役所の人にいき、許可をもらって、今日した事を確認したので、そして学校に送り、その数週間の日曜、時間内送る考えで実際にしたことの計画あり。ハートを作る習を分けて渡した。

問2) 本日の地域福祉活動をやってみて、「学んだこと」を自由に記入してください。

「わかったこと」「感じたこと」を記入してください。

今日、地域の福祉活動をして、子供たちも、大人も、みんな、楽しそうに思っていた。障害者の気持ちがわかるようになった。障害者がどんな生活をしているのか、という事が、わかりました。障害者が、生活を送る上で、困っている事があるかもしれない。それを、自分たちが、できる範囲で、サポートできるようにしたい。また、障害者と、交流するために、いろいろな機会を作りたい。これからも、地域福祉活動を通じて、多くの人々と、つながりたいと思う。

※よろしければ、子どもの学びの報告を受けた“感想”を自由にご記入ください。



10 大王谷こどもフェスティバルにおける報告



大王谷学園では、毎年11月に地域の方を招いて「大王谷こどもフェスティバル」という行事で自分たちの学習の様子を地域の方々に報告している。6年生は、この発表の機会を活用し、地域福祉活動の様子について報告することにした。

これまで取り組んできた福祉活動の基本は、地域であり、地域調査や地域福祉活動においては、区長さんをはじめ多くの地域の方々にご協力いただいた。また、自分たちの取り組んできたことは地域に直接かかわることなので、地域に住んでいる多くの方々に活動の様子を知ってもらうことで、地域福祉について考えるきっかけとなった。

オ 研究の成果と課題

今回実践した福祉教育に関しては、自分たちが住んでいる地域を見つめ直し、学習し、地域のことを知り、地域を大切にすることということを児童一人一人が感じることができた取組であった。そのため自己評価をみても、おおむね「よい」という評価であった。

表 自己評価（※ 5段階で「5」がよい評価）

評価項目	自己評価
人間関係形成・社会的能力	4.35
自己理解・自己管理能力	4.27
課題対応能力	4.36
キャリアプランニング能力	4.42

(ア) 研究の成果

- 福祉活動をととして、児童一人一人が「自分のできること」「意義を感じること」「したいこと」について、地域に主体的に働きかけることによって、自分自身の可能性を含め、肯定的な見方や考え方ができるようになった児童が増えた。（自己理解・自己管理能力に関する成果）
- 地域福祉活動を企画する中で、地域の様々な課題を発見し、分析し、その課題解決に向けて友達と協力しながら、解決することを数多く体験できた。（課題対応能力に関する成果）
- 自分たちが取り組んできたことを家庭や地域に報告することで、理解が深まるとともに、自分たちも地域の一員であるという意識が高まった。

(イ) 研究の課題

- キャリア教育においては、「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」だけでなく「人間関係形成・社会形成能力」「キャリアプランニング能力」の育成を意識した学習の在り方を研究していくことが必要である。
- 地域福祉活動は、地域人として常にかかわる内容なので、今後も地域を見つめ、気付く児童の育成を進めていく必要がある。そうすることで、大王谷の地域力の向上につながると考える。

カ おわりに

今回の福祉教育に関しては、成合進也さんをはじめとする多くの日向市社会福祉協議会の方々にご協力いただいたことで実践が可能になったことはいふまでもありません。また、地域活動においては区長さんをはじめ多くの方々に支えていただきました。これらの方々に心からお礼を申し上げます。